

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念に「地域社会と共に」という項目がある。 ・その運営理念実践のため、地域の民生委員さんなどに夏祭り、餅つきなどの参加をお願いしたり、中学校の「トライやるウィーク」の協賛などの地域活動をしている。 ・芦屋市の介護予防事業、認知症見守り事業など請け負っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ地域との係りもずいぶん広がってきているが、より一層地域と交流していきたい。 ・小学校、幼稚園とも関わっていきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念を玄関と各フロアに掲示し、朝のミーティングで唱和している。 ・理念を踏まえてケアプランを作成し、日々の暮らしの中に生かしている。 ・ミーティング、ケース検討などの度に理念の共有、実践を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人研修でも理念の共有を図っているが、きめ細かく日々の実践の場で示していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方々には、入居時、各イベント、外出の機会に地域との係りについて説明している。 ・地域の人々には、イベントの参加を呼びかけたり、地域での買い物、散歩のときの声かけなど実行している。 ・運営推進会議で民生委員の方々にも理念をお話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機会あるごとに家族、地域の方々とともに地域との関わりを大切にしていきたい。
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の外出時、スタッフの通勤時など近隣の方々への挨拶は自然なこととして行われている。 ・近所の八百屋さんが施設内市場を開いている。 ・美容院も近所の美容院に出張で来てもらっている。 ・夏祭り、お餅つきなどのイベントは近所の方も誘っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま良好なご近所との付き合いを継続したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会、コミスク、民生委員のつどいなどに参加している。 ・ホームの催しにも老人会、コミスク、民生委員さんにボランティアで来てもらっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉推進委員さん、老人会、コミスクの皆さんだけでなく自治会の皆さんとも交流したい。
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市の委託事業で、「すこやか教室」「さわやか教室」を開催している。 ・認知症サポーター養成講座、救急救命講座など開いて、地域の高齢者、家族に来てもらっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと、より一層の協力をして地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者に評価してもらうことにより、サービスの改善点に気づき、よりよいサービスにつなげられるよう考えている。 ・前回指摘のあった市や地域住民との係りはずいぶん増えた。 ・食への満足度調査は18年9月のアンケートで行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今回の第三者評価も、私たちの日頃のケアのよい振り返りになると思う。 ・よりよい介護の指針としたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回の運営推進会議では、地域の方や家族に利用者の状況報告や第三者評価の意義などを説明して理解を求めている。 ・地域の方たちも忌憚のない意見を述べている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・続けて地域の方、家族と連携を取っていきたい。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議には地域包括支援センターのスタッフに必ず参加してもらっている。 ・芦屋市福祉センター構想策定市民会議に参加している。 ・芦屋市介護サービス事業者連絡準備会のメンバーになっている。 ・市の担当者との連絡を密にしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きし担当者との連携を密にしていきたい。 ・芦屋市介護サービス事業者連絡会発足の折には加盟する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターである西山手高齢者生活支援センターと連携をとっており権利擁護についても最新情報を享受している。 ・施設運営会議で各リーダーに説明している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護、成年後見制度についての勉強会を開きたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフには、拘束、虐待は決してしてはいけないこととして、ミーティング、事例検討会などで繰り返し説明の機会を設けている。 ・芦屋市発行の高齢者虐待対応マニュアルに基づき、対処している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことが拘束、虐待にあたるのか、など包括支援センターの社会福祉士を講師に招き勉強会を開きたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の前には複数回の説明を行っている。 ・こちらからの解約はまだないが、利用者の方から申し出があった1件は十分にお話しを伺って次の施設を紹介した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・契約、解約の際には十分納得していただけるように説明する。
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で、入居者の意見を伺いながら、作業をしている。 ・1対1で話す時間を設け、ゆっくりお話しを聞くようにしている。 ・意見を承った時は、誠意をもってお答えし、反省すべき点は反省し、次へつなげている。 ・外部の相談窓口も紹介している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族の意見を十分に反映させた運営をしたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の介護レターで生活状況、健康状態のお知らせをしている。 ・体調などの変化がある場合はお出でいただいたり、電話で説明している。 ・日々の生活の写真やビデオを面会時に見ていただいている。 ・ホーム全体の様子、職員の移動に関しては、年2回の家族会で報告している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・都合によりメールが便利な方とはメールの交換をする。 ・様々な形で報告を続けていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>15</p> <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の説明で、アクティブライフ以外の苦情申し立て機関を示している。 ・家族会、運営推進会議あるいは、家族面会の際、いつでも忌憚のない意見が述べられるような雰囲気を作っている。また年1回サービスアンケートを実施している。 ・意見を承った時は、できるだけ早く今後の見通しをお答えしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見、苦情は、より良いケアへのステップと考え、拝聴し改善に向けて取り組んでいきたい。
<p>16</p> <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回面談シートに書き込みながらの面談を行う。 ・月1回施設運営会議で、各部門のリーダーの意見を聞く。 ・それぞれの部門で開くミーティングに参加し、スタッフの意見を吸い上げる。 ・年1回本社に改善提案を提出する機会がある。 ・各施設のリーダーが集まって担当者会議で話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・現場スタッフの意見をなるべく多く運営に反映させていきたい。
<p>17</p> <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応が必要な方がおられる時、行事のある日は職員体制を厚く整えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが働きやすい環境を整え、ひいては入居者の笑顔を引き出したい。
<p>18</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者と職員、職員どうしの共有できる体験を積み重ねて信頼関係を築いている。 ・まれに職員が交代するときは、新職員に1ヶ月間フロアの研修に入ってもらい、そのフロアの状況、動きをよく知ってもらう。 ・日頃からフロアの交流を深め、どの職員とも馴染みの関係を作っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ同じメンバーで介護体制が組めるようにこれからも努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社として新人研修、中堅研修、管理者研修を行っている。 ・新人は1ヶ月にわたるOJT研修、全スタッフに向けて月1回のアクティブライフ山芦屋独自の勉強会がある。 ・毎日の申し送り、各種ミーティングなどでスタッフの気づきを忌憚なく話してもらっている。 ・社内外の様々な研修に参加してもらうようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本社研修センターを活用したい。 ・社内研修であるコンプライアンス研修、気配り安全運転講習、事例発表会には該当のスタッフになるべく多く参加してもらおう。 ・自己研鑽にも励んでもらおう。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市介護サービス事業者連絡準備会に参加し、同業者の連絡会を結成する努力をしている。 ・他事業所の運営推進会議に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市介護サービス事業者連絡会発足時に入会予定(19年9月26日) ・他事業所と交換研修をしたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の個別面談、随時職員の話聞く機会をつくっている。 ・不定期だがスタッフ懇親会を開いている。 ・介護者へのケアの講演会を開いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話のしやすい職場環境をより充実させたい。
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格を取るための受験料、テキスト代、受講料などの補助が出て資格取得をすすめている。 ・起案書で新しい取り組みに挑戦できるよう工夫しており共に実践し、取り組むようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフにアンケートをとり、スタッフの学びたいことを踏まえて年間の研修計画をたてている。 ・面談シートの目標設定で、それぞれの目標を明確にし自己啓発をつながしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用までの間に管理者とリーダーが家庭訪問し直接本人と会って、生活習慣、日頃の楽しみ、注意事項などを伺っている。</p> <p>・本人からも家族からも心配なことは心配がなくなるまで相談に乗る。</p>	<p>・入居前の面談は、引き続き丁寧に対応していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談から入居まで、リーダーもしくは選任のスタッフが対応し、家族の不安がなくなるまで相談に乗る。</p> <p>・家族の希望もじっくり聞く機会も複数設定し、不安がなくなるまで対応する。</p>	<p>・家族にも、入居前の面談は丁寧に対応していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談を受けた時、まず、本人と家族の思いをしっかりと受け止め、担当のケアマネージャー、主治医の意見も踏まえ総合的に判断できるようにしている。時には、そのまま在宅介護を続けていただくことになる場合もある。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・まずは職員がお宅に訪問し、お話しをじっくり伺う。</p> <p>・施設に見学に来てもらったり、同一事業所のデイサービス、ホームヘルプサービスの利用から始めてもらうこともある。</p> <p>・入居時、本人のお気に入りの品物や家具を持参してもらう。</p>	<p>・引き続き、本人が施設に馴染めるように工夫していきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・生活の場として、入居者もスタッフも日常生活の場で一緒に過ごし、感じ、助け合う人間関係を築いている。一方的でない双方向の人間関係ができています。</p>	<p>・一人ひとりとの係りも、グループとしての生活も大事にしながら支えあっていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の面会、随時行う面接などを通して、家族と一緒に悩み、考え、共に支えていく関係を築いていくよう努力している。 ・ ケアプランの中に家族の意向も反映されている。 ・ 行事のときや日常の生活でも家族にお手伝いいただいている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も家族と共に支えあっていきたい。
29 利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう に支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅ではなくグループホームでの生活を選ばれたからこそ築ける家族関係があることを理解していただき、面会しやすい雰囲気作りをしている。 ・ 介護レターでの状況報告、行事等を通してより良い関係に向けて支援を行う努力をしている。 ・ 家族と手紙や電話のやり取りができるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの家族が無理なく本人と係っていけるよう、援助したい。
30 利用者 がこれまで大切に してきた馴染みの 人や場所との関係 が途切れないよう、 支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理屋、カフェ、育った町など馴染みの場所や人に会いに出かけている。 ・ 家族はもちろん、友人、知人の来訪も自由。 ・ 入居前の暮らしを継続する工夫をしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ馴染みの人、物に囲まれて生活できるように支援する。
31 利用者 同士の関係の支 援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員での外出やアクティビティで交流を図る。 ・ 日常でも皆が楽しめる状況になっている。 ・ 相性や生活習慣の違いもあることを理解しスタッフがさりげなく調整することはある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームでの新たな人間関係が、より穏やかで心地よいものになるように見守っていきたい。
32 関係 を断ち切らない 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次のサービス提供者が決まっている場合は丁寧な引継ぎを行う。 ・ 退去された入居者の家族も無理のない範囲でイベントなどにお誘いしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ どなたとも、これまで築いた人間関係を大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各個人とのお話の時間をなるべく多く取り、本人の希望を伺っている。うまく表現できない場合も日頃の行動や言語の背景を探り、家族や知人から生活暦なども伺い、本人の意向に沿うように努力している。 本人の情報をスタッフも共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、本人の思いや希望を把握しスタッフ間で共有できるように接していきたい。
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本人、ご家族より聞き取った生活歴、希望などを記録し、スタッフ間で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 入居後もホームでの生活に馴染んでいただくためにご家族に生活歴などお聞きする場合もある。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの毎日の記録をスタッフ間で共有している。 ミーティングでも各入居者がどのような暮らしを望んでおられるか、話し合い、変化や気づきを共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> フロア全体を見ながら、一人ひとりの状態、変化を見極め記録する。 朝夕2回の申し送りも引き続き行う。
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望を聞き、スタッフミーティングで仮の計画を作成。その後本人と家族も交えて話し合い、それぞれの意向に沿った介護計画を作成している。 必要に応じて、主治医の意見も取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画のフォームを、より見やすいものにする。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のミーティングで随時見直している。 体調が大きく変化したときは、家族と面談して介護計画に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直した介護計画の書面を家族に確認してもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>38 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の状況記録に日々の様子や特記すべきことは記入し、情報を共有している。 ・ミーティングでも個々の情報を共有している。 ・申し送りノートを作り、日々の情報を共有している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して情報の共有をはかりながら、それを介護計画に生かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員さん、住民の方々、デイサービスの利用者と共に楽しむ音楽会や夏祭り、お餅つきなどのイベントが多い。 ・地域の美容院、お店、お祭りなどに出かけることも多い。 ・通院介助や、外出介助に他部門のスタッフがかかわることもある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・さらにアクティブライフ山芦屋全体での行事など考え、地域の皆様とともに楽しみたい。 ・地域の催し物にできるだけ参加したい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>40 地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事には、民生委員、福祉推進委員、老人会のボランティアが多く参加する。 ・芦屋消防署による消防訓練が毎年2回ある。また救急救命講習にも来てもらっている。 ・市内中学校のトライやるウィークで中学生の受け入れをしている。 ・近所の八百屋さんが月1回施設に来てミニ市場を開いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学の看護リハビリテーション学科の学生の実習受け入れ。 ・芦屋芸術村の小学生の演奏会の企画。 ・三条コミスクより盆踊りの練習、夏祭りへの参加。
<p>41 他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所とサービス内容などの情報交換をしている。 ・地域のケアマネジャーの見学は常時受け入れており、施設の説明も随時おこなっている。 ・音楽、運動を取り入れたリハビリや書道などインフォーマルサービスやボランティアも受け入れられている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所の研修会なども参加したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターは同一敷地内にあるので、総合的ケアマネジメント、権利擁護、研修などについて常に協働している。 ・運営推進会議には、地域包括支援センターのスタッフも出席している。		・引き続き地域包括支援センターと協働していきたい。
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医として希望の医師に受診してもらっている。必要に応じスタッフが受診付き添いをする。 ・協力医は月1回の往診に来られ、年2回の健康診断もお願いしている。 ・診療内科と外科の医師も毎週往診している。 ・歯科医師会と提携して、一人ひとりの入居者に専属の歯科医があり、口腔衛生の管理をお願いしている。		・それぞれの医療機関とは綿密に連携をとり、入居者の健康管理を行いたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	診療内科の医師は、認知症に詳しく、職員からの相談も気軽に受けてくれる。診断、治療も随時行ってくれる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	アクティブライフ山芦屋の他部門に看護師が複数おり、利用者を把握している。また随時スタッフの相談にも乗っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・利用者入院時には、できる限りスタッフはお見舞いに伺い、本人の状態確認をし、病院スタッフと情報交換している。 ・病院の相談員と退院に向けての情報交換は随時している。		・入院時用の入居者のケアに関するサマリーを作って、その方の細かいで亜を病院側と共有したい。 ・退院後、少しでも早くホームの生活に馴染んでもらえるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期の看取りを一度経験した。		・アクティブライフとして、終末期のケアをどうしていくか、あるいは受けるのならその方法のマニュアルを作成する予定。 ・運営者、管理者、リーダー、スタッフ間で方針を共有できるようにしたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・重度化予防の支援を行っている。生活リハビリ、待つ介護、個別の支援計画・・・		・終末期ケアを受け入れ態勢を整えて検討していきたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・当ホームに来られる時は、慈善にスタッフが面接し馴染みの関係を作ったり、入居の際に馴染みの家具を持ってきてもらう。 ・移り住む先の施設、あるいは病院に、生活状況、サマリーなど、ご家族に同意を得て、提供している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・排泄ケアに関しては特に尊厳を大切にしている。本人にだけ分かる声かけ、オムツの始末など。 ・スタッフに対する個人情報保護の教育を徹底し、誓約書を書いてもらっている。個人情報は鍵のかかる戸棚にしまっている。		・うまく意思表示ができない方の尊厳も軽視しない。 ・利用者の個人情報はスタッフが守る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が「我（われ）がまま」に過ごされる生活を大切に支援している。 ・本人が決定できるような、声かけを心がけている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がやりたいことを自然に見つけられる環境作りをする。 ・説得されるのではなく、納得しながら、物事を決定し、暮らしていける支援を心がける。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望、目標に沿ったケアプランをたてて援助している。毎日のアクティビティもその時々利用者の状況に配慮して無理強いしない。 ・食事の時間もだいたい決まっているが、その日の体調などに合わせて個別対応している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・何事も、～しなければならない、と決め付けるのではなく、それぞれの方がどのような暮らしを望んでいるかを考えていく。
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの店のある方はその美容院に行ってもらおう。来訪する美容師さんにもそれぞれのお好みに合わせてカットしてもらっている。 ・外出時やイベント時の衣服選びやお化粧は楽しみのひとつになっている。 ・日頃から身だしなみには気をつけておりネイルケアもしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時には季節の服を買いに行く。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事の準備はできないが、配膳、後片付けなど、できることは利用者をお願いしている。 ・食事はスタッフも一緒に食べている。 ・アクティビティで昼食作り、おやつ作りは月に数回行っている。 ・たまには地域のお店に食べに出かけたり、宅配を利用したりもする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の大きな楽しみである食事を、より楽しくするための工夫を重ねていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>55 利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・晩酌をされる方がいる。外食のとき、ビールを楽しまれることもある。 ・喫煙される方はいない。 ・おやつは身体に差し障りのない範囲で自由である。 ・近所の八百屋さんの出店でお好きなものを買ってもらえる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの嗜好を大事に楽しい食生活を送っていただきたい。
<p>56 気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、夜中ともトイレでの排泄を基本としている。 ・必要な方には、回数、量を記録している。 ・個人の気持ちに合わせた排泄介助をしている。 		
<p>57 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の事情に合わせて、お好きな時間帯に入浴していただく。隔日の方もあれば、毎日の方もいる。 ・希望の方には同性介助をしている。 ・入浴剤もお好きな方には利用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの入浴を保清の手段としてだけでなく、一日のうちでリラックスできる時間として大事にしていきたい。
<p>58 安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日中に適度の運動や不安を取り除く支援をし、夜間の安眠につなげている。 ・消灯時間は特に決めていない。 ・夜間の室内の明るさは個人の好みになっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一日は継続しており、昼夜を通しての生活のリズムを大事にしている。 ・日勤者と夜勤者の申し送りも大事に考えている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
<p>59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に合った役割を持っていただいている。 ・全体でやるアクティビティと個人向けのアクティビティがある。 ・音楽療法士による音楽療法、スポーツトレーナーによる個別の機能訓練がある。 ・外気浴、外出は頻繁に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康運動指導士による健康体操教室を行う。 ・一人ひとりの楽しみのある暮らしのために引き続き支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理が可能な方には小額の現金で、買い物などしていただいている。 ・月に一度、近所の八百屋さんに来てもらって、それぞれの方に2000円以内で好きなものを買っていただき計算もできる範囲でしてもらっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き八百屋さんに来てもらう。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物、散歩、ドライブ、外食、喫茶店など日常的に個別にも、集団でも出かけている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・うつ傾向の方や身体的に重度の方もそれぞれの状態に合わせて外出できるようになってきた。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、お花見、美術館などやや遠くへの長時間外出の企画がある。 ・2007年2月には淡路島に一泊旅行に出かけた。 ・個別対応で京都などの遠方、なじみの街に出かける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、個別対応、全体での外出など充実させたい。
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室に電話を引いている方もある。 ・公衆電話も自由に使える。 ・手紙を書くのに援助をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・季節のお便りを書いてもらう。
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、友人、知人がいつでも来館していただける。普段から来ていただきやすい雰囲気を作っている。 ・行事、イベントに家族、知人も招待し、気軽に来ていただける工夫をしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きどなたでも、いつでも来ていただけるよう、オープンな雰囲気をだいたいにする。
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定制限における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフには、入社時、OJT、ミーティングで随時理解してもらうように努めている。 ・いかなる状態であっても個別のケアを工夫し自立を妨げないケアを行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、利用者の様々な周辺症状も理由があるのだ、という認識をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・1階玄関は中からは開かないが、施設の立地している環境上やむをえない、ということで家族会で了承を得ている。 ・居室の鍵は、利用者が中からかけられる。スタッフが外からかけることはない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に関しては、このまま継続。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは常にフロア全体を観察し安全を確認している。 ・他のフロア、事務所とも連携を取り、利用者が館内のどこにいても安全を確認できる体制をとっている。 ・必要な方には離床センサー、センサーマットも利用する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きプライバシーに配慮しつつ利用者の安全を考えていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの利用者に合わせて置き場所を工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・危険なもの、お預かり品の情報をスタッフで共有する。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフには、入社時より緊急対応マニュアルを終始徹底している。非難誘導訓練も年2回行い注意を喚起している。 ・ヒヤリハットの記録、情報の共有化をはかり、その都度ミーティングで話し合っている。 ・配薬、投薬に関しては3重チェック体制。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、自己報告書などを活用し、危険予測をする。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフには、入社時より緊急対応マニュアルを終始徹底している。 ・ヒヤリハットを活用し、緊急時の対応を常にシミュレーションできるようにしている。 ・救急救命講習の受講をすすめている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応の研修を定期的に行う

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の緊急避難訓練を芦屋市消防所立会いのもとに行っている。 ・入居者、スタッフの一日分の非常食を準備している。 ・緊急対応マニュアルを各フロアに備え、入社時、あるいは随時確認している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが常に緊急時の対応ができるよう、定期的に研修、確認をしたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族等とは、面会時や家族会等で日常生活やその他のリスクがある旨、そのリスクに注意しながらも楽しみのある生活を送る支援を行うことを話し合っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットを活用し、それぞれの利用者のリスクを予測できるようにもしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいたことは記録し、家族、協力医に連絡、報告している。スタッフ間でも共有し、話し合っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりと全体の状態を常に把握しスタッフ間で共有していきたい。
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬中、終了した薬ともに記録し、スタッフ間で共有している。 ・薬の服用目的を理解し、症状の変化は医師に様子を報告し、医師の指示に従っている。 ・薬が変わった場合は家族に連絡している。 ・薬に関する本を置いている。 		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に誘導、声かけしており、必要な方には排泄記録をつけている。 ・水分摂取、食事の内容を工夫している。 ・腹筋、背筋を鍛える体操を取り入れている。 ・個々の問題は医師に報告、相談している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の大切なことをわきまえ、丁寧に個別介助をしていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに担当の歯科医があり、定期健診をしている。状態に応じて受診、往診してもらっている。 ・毎食後、それぞれの状態に応じて口腔ケアをしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ブラッシングや管理等、自分でできる方にはその力を維持していただけるよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・量、栄養バランスは管理栄養士がチェックしている。 ・必要に応じて、きざみ食にしたり、ダイエット食を提供している。 ・各利用者の食事量、水分量を記録して、足りない分を捕食で補っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状況に応じた栄養、水分摂取を心がけていきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症マニュアルに基づき、うがい、手洗いの徹底をはかっている。食器、衣類、居室の除菌も毎日行っている。 ・ポスターにて注意喚起している。 ・防護服の準備もしている。 ・ミーティングで随時、確認している。 ・インフルエンザは毎年予防接種をしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、感染症予防に努めたい。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房の委託業者は衛生管理マニュアルに従って調理している。 ・フロアでは、必要な食材はその都度購入している。食器は、洗浄、乾燥の上収納している。 ・キッチンの消毒、冷蔵庫の整理は毎日行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き毎日の食材管理を行い、食中毒予防に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・門は日中開放しており、玄関までのアプローチや庭に四季の花や野菜を栽培して、どなたでも楽しみながら出入りしてもらえるよう、工夫している。 ・地域に溶け込む外観の建物にしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族、近隣の人々に親しみやすい環境をこれからも工夫していきたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日清掃して清潔を心がけ、照明、室温は随時適正に保っている。 ・季節の花を飾ったり、利用者の作品を飾って居心地よい空間を作っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活用品、アクティビティの材料などさりげなく置いて、利用者の自発的な動きを促したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各フロアのリビング以外にサロンや多目的室があり、椅子や雑誌やピアノを配置している。 ・庭にも椅子、テーブルがあり思い思いに過ごせる。 ・二つのユニットの間に一人になれる空間がある。 		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には使いなれた家具、雑貨、絵、本などを持ち込んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・必要に@応じて部屋の模様替えをし、より住み心地のよい空間を作る。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り窓を開け、換気している。 ・温度計、湿度計を設置し、リビング、居室の環境に気をつけている。 		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な箇所には手すりをつけ、建物全体がバリアフリーになっており、それぞれの身体機能に合わせて移動できるようになっている。 		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに合わせた声かけで、生活のリズムを作っている。 ・トイレが分かる工夫や、居室の表札などで混乱を防いでいる。 		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ベランダの花の水遣りをお願いしている。 ・中庭で野菜を作っており、水遣り、収穫、調理などやってもらっている。 ・中庭で運動したり、お茶を飲んだり談笑したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・広い庭を利用して、利用者が楽しめる庭造り、野菜作りをしていきたい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・うまく意思表示できない利用者の尊厳も大事にして、プライバシーの保護を考えながら温かい介護を目指す。
- ・一人ひとりの思いを尊重し、重度の方も自己決定ができる支援をする。